

(広報資料)



**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

京都市は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。



令和5年12月8日
京都市環境政策局
〔担当 環境企画部環境管理課〕
電話 075-222-3951

令和5年度（第21回）京都環境賞 受賞者の決定及び表彰式の開催

京都市では、市民や事業者の皆様の環境に関する関心を高め、様々な実践活動の更なる推進を図ることを目的として、平成15年度に京都環境賞を創設し、地球温暖化の防止、生物多様性の保全や循環型社会の推進等の環境保全に貢献する活動を実践されている方を表彰しています。

この度、令和5年度（第21回）京都環境賞の受賞者を決定し、表彰式を執り行います。

1 日時

令和5年12月19日（火）午後3時～午後4時

2 場所

京都市役所 第1応接室（本庁舎3階）

3 受賞者（詳細は別紙参照）

| | |
|---------------------------------|-----|
| 京都環境賞（大賞）：表彰状及び副賞（表彰銘板及び賞金10万円） | 1者 |
| 特別賞（7部門）：表彰状及び副賞（賞金2万円） | 7者 |
| 奨励賞：表彰状及び副賞（記念品） | 14者 |

4 出席者（予定）

(1) 受賞者

京都環境賞（大賞）及び特別賞の受賞者

(2) 来賓

西村 義直 京都市会議長、平山 よしかず 京都市会副議長

(3) 京都市環境審議会 京都環境賞選考部会

山本 芳華 部会長

(4) 京都市

門川 大作 京都市長 ほか

5 次第

出席者紹介

表彰

市長挨拶

来賓祝辞

選考講評

記念撮影

令和5年度（第21回）京都環境賞 受賞者及び活動内容

今年度は、57件の応募の中から、京都市環境審議会京都環境賞選考部会での議論を踏まえ、下表のとおり、22者を受賞者として決定しました。

1 受賞者

(1) 京都環境賞（大賞）及び特別賞

(敬称略、五十音順)

| 賞の種類 | | 受賞者 |
|-----------|----------|----------------------|
| 京都環境賞（大賞） | | 株式会社ヒューマンフォーラム |
| 特別賞 | 地球温暖化対策賞 | 第25回日本医薬品情報学会総会・学術大会 |
| | 生物多様性保全賞 | ビーバーの山の会 |
| | 循環型社会推進賞 | 西喜商店 |
| | 環境担い手賞 | 京都華頂大学 現代家政学部 食物栄養学科 |
| | 個人活動賞 | 劉 大可、姚 曉嵐、Martin・張 |
| | KES推進賞 | JR西日本京都SC開発株式会社 |
| | エコ学区賞 | 久我の杜自治連合会地域ごみ減量推進会議 |

(2) 奨励賞

(敬称略、五十音順)

| 賞の種類 | 受賞者 |
|---------|--------------------|
| 奨励賞 | 株式会社祇園ビール |
| | 株式会社京都映画センター |
| | 株式会社ジェイアール西日本ホテル開発 |
| | 株式会社ライフコーポレーション |
| | セントラルスクエア西大路花屋町店 |
| | 京都北山やままゆ塾 |
| | 京都市ごみ減量めぐるくん推進友の会 |
| | 京都市生活環境事業協同組合 |
| | くるん京都 |
| | 合同会社ラピスプライベート |
| | チームFCいわくら |
| | 中立エコ生活推進会議 |
| | 長沢 峯子 |
| | potential |
| 名神深草森の会 | |

2 活動内容（敬称略）

京都環境賞(大賞)

| | |
|-----------------------------------|--|
| <p>株式会社 ヒューマンフォーラム</p> | <p>不要衣服の回収 BOX を市内約 100 箇所設置し、古着として販売又は無償提供する「リリースキャッチプロジェクト」を展開。また、「循環フェスプロジェクト」では、イベント形式での不用品の回収と無償提供のほか様々な企画も実施。これらのプロジェクトにより、多くの若者、地域住民を巻き込み、地域事業者や行政と連携して、京都独自の地域内循環の仕組みを作ることを目指している。</p> |
|-----------------------------------|--|

特別賞

| | |
|---|--|
| <p>地球温暖化対策賞</p> | |
| <p>第25回 日本医薬品情報学会 総会・学術大会</p> | <p>学術大会において、大会初・業界初の斬新な試みとして、SDGs をサブテーマに据え、SDGs 大会運営を参加者全員に周知し、要旨集のペーパーレス化やマイボトル・マイ箸等の持参、地産地消の食材をバイオプラ容器に入れた腹八分目の SDGs 弁当の提供など、温暖化対策をはじめ、ごみ削減、プラ削減、食ロス削減などを実行した。</p> |
| <p>生物多様性保全賞</p> | |
| <p>ビーバーの山の会</p> | <p>15 年間、左京区久多において、散策道の補修、谷川の流木撤去、希少種の保護、動植物の定点観測のほか、専門の講師を招いての自然観察会や山菜の料理教室等のイベントも実施。谷川沿いに自生しているエビネやナツエビネが大雨で流されないよう、移植して保護しており、4 年程前に、京都市域で初めて、絶滅寸前種(京都府レッドデータブック 2015)のサルメンエビネを発見した。</p> |
| <p>循環型社会推進賞</p> | |
| <p>西喜商店</p> | <p>流通の中で行き場を失い、市場に滞留した青果を積極的に買い取り、八百屋で販売している。また、市内の異業種の店先に販売ブースを設置し、青果を販売してもらう「軒下青果店」の活動も実施。街中に販売スポットを増やすことで、自店の在庫回転率を上げ、新たな流通の循環創出を図っている。食品ロス削減に貢献しながらも、買い物難民の対策、加盟店周辺の顧客とのコミュニティ形成を目指している。</p> |
| <p>環境担い手賞</p> | |
| <p>京都華頂大学 現代家政学部 食物栄養学科</p> | <p>管理栄養士を目指す学生たちが、「食」という観点から自発的に環境保全について学び、気づき、発信し、結果として地域に貢献できる力をつけることを目指している。地域イベントにおいて食品ロス削減の啓発を行うほか、学生食堂運営事業者や食材提供事業者、京都市との連携のもと、身体と環境にやさしいメニューを考案し販売まで進め、学祭では SDGs のパネル展示とフードドライブを実施している。</p> |
| <p>個人活動賞</p> | |
| <p>りゅう だいか 劉 大可、 やお しゃおらん 姚 曉嵐、 まーていん ちよう Martin・張</p> | <p>今宮神社の神幸祭の際に、休憩場として使用されていた京町家が火災で焼失。京都の地域社会と文化に興味を持つ留学生 3 人が、京都大学から提供された機材を用いて、焼損材と廃材を再利用し、新しいベンチと床板を自作するとともに、京北の木工場と京都大学桂キャンパスから許可を得て採取した苔と竹を組み合わせて、新しい祭りの休憩場を創出した。</p> |

| | |
|---------------------------------|--|
| K E S 推進賞 | |
| JR西日本京都SC開発株式会社 | <p>京都府及びZERO、ウェザーニューズとの4者協定を結び、京都ポルタ館内にフードロス対策自販機「fuubo」を設置するとともに、一部店舗で売れ残りが予想される商品をJR西日本・京都駅周辺のグループ会社社員向けに販売する実証実験を行うなど、フードロス対策に取り組んでいる。また、飲食店への生ごみ排出量削減指導や生ごみ処理機（バイオ型）活用により、飲食店で発生する食品残渣・生ごみ排出量削減に取り組んでいる。</p> |
| エコ学区賞 | |
| 久我の杜自治連合会 地域ごみ減量推進会議 | <p>循環型ライフスタイルの普及を目指し、平成24年から資源物・廃食油回収などを実施。令和2年度からは住民の自発的アイデアでエコ学習会や啓発活動を企画し、生ごみのたい肥化、不用品を集め欲しいものを持ち帰る「0円エコマーケット」、脱プラスチック啓発「ヘチマプロジェクト（栽培・たわし作り・販売）」等を企画し、他のエコ学区を含め、地域交流を広げている。</p> |

奨 励 賞

| | |
|---|--|
| 株式会社祇園ビール | <p>廃棄されるはね品、過剰在庫などの京都産食材（亀岡産キウイフルーツや京北町の黒豆、大原の赤紫蘇）等をアップサイクルしたオリジナルのクラフトビールを、毎回企画で委託製造し、『祇園ビール』として同店のみで提供している。企画から製造・提供までに、他のアルコール製造にはないスピード感で提供でき、農家の問題解決や地産地消というだけでなく、地域のアピールや観光誘致にもつながっている。</p> |
| 株式会社 京都映画センター | <p>八瀬天満宮社の参道を照らす小水力発電など、各地で展開している様々な地球温暖化対策の取組のドキュメンタリー映像（映画「ヴェンデ（大転換）」シリーズ2本）を制作し、令和3年12月から、環境問題に取り組んでいる団体や個人に働きかけて、上映会を実施。全国32都道府県にある映画センターのネットワークでも同映画の普及啓発活動を行っている。</p> |
| 株式会社 ジェイアール西日本ホテル開発 | <p>食品廃棄物のアップサイクル推進を通じた循環型社会の実現に貢献することにより、地球環境に優しいホテルを目指し、協力会社と連携し、当社が排出する食品廃棄物（廃食油、コーヒー粉等）を原料としたストローやコーヒーカップを製品化し、顧客に提供している。廃食油を原料とした「GreenPlanet」製のストローの製品化は世界初、自社の抽出後のコーヒー粉を活用し食器へ再生する取組は業界初の試みである。</p> |
| 株式会社 ライフコーポレーション セントラルスクエア 西大路花屋町店 | <p>従業員や地域住民が環境問題を緊急課題として認識、自分事化し、お店はできる事から課題解決のしくみを作り、地域住民と一緒に共存共栄できるサステナブルなお店にすることを目指し、京エコロジーセンターの協力のもと、従業員へのエコ・環境問題・SDGs教育を推進、地域住民や店舗の来客を対象としたエコイベントを開催している。また、定量的に店舗での食品ロスをはじめとするごみの減量・分別及びリサイクルに取り組んでいる。</p> |
| 京都北山やままゆ塾 | <p>京都の昆虫の世界について生態と生息環境など幅広い視点から紹介する出前授業（環境学習）を松ヶ崎小学校など、京都府全域の30の小学校で行っているほか、子どもから一般市民まで幅広い層を対象に学習会・観察会・展示会・公開講座などを実施。京都北山の里山の自然に学び、そこに暮らす生きものの保護とその生息環境の保全に取り組みながら環境教育を継続的に展開することで地域社会に貢献することを目指している。</p> |

| | |
|---|---|
| <p>京都市ごみ減量 めぐるくん推進友の会</p> | <p>衣類を大量に生産、購入、廃棄する「衣類ロス」問題について、多くの人達に現状を伝え、自分ごととして考えてもらうため、余っている毛糸や着なくなったセーター等をほどいた毛糸で、オリジナルのコースターやミサンガを簡単に作れる「さをり織り」のワークショップを、イベントや児童館などで開催し、衣類ロスの削減を目指している。</p> |
| <p>京都市生活環境事業 協同組合</p> | <p>京都市委託の家庭ごみ収集事業者組合各社独自で行っている教育資料を全て集約、一元化した「学習テキスト」を組合共通の学習資料として作成。常に市民目線での業務が遂行できる知識や技能を向上させることにより、「世界の文化首都・京都」にふさわしい“環境エキスパート”を積極的に育成するシステムを構築した。</p> |
| <p>くるん京都</p> | <p>量り売りや包装なしで買い物ができる店舗を登録した「くるん買い物マップ」を作成し、オンラインで公開するとともに、大工工事で廃棄される端材を活用し、再生可能エネルギーで作成したオリジナルの木製プレートを登録店の店頭を設置し、「マイ容器」の利用を推進している。また、市民・事業者を対象としたごみについて考えるイベントも実施し、使い捨て包装ごみが出ない社会が実現されることを目指している。</p> |
| <p>合同会社 ラピスプライベート</p> | <p>ロス野菜問題の解決を目指し、『へんてこりん野菜（余剰野菜）で「面白い」を創る』ということをビジョンに掲げ、京都の余剰野菜を活用した「べじからふる絵の具」の製作とワークショップの実施を通じて、野菜の新たな楽しみ方を提案している。また、へんてこりん野菜と触れ合いを通じて、「へんてこりんでもええやん」というメッセージを京都の子供や学生に発信している。</p> |
| <p>チームFCいわくら</p> | <p>大学生や地域の人々とともに、介護保険住宅改修等で出た廃材や民間事業者から譲り受けた廃棄される消防ホースをリメイクするワークショップを通じて、地域における高齢者や認知症患者の介護保険サービスの利用ではないインフォーマルな社会参加の場を提供している。また、取組で得た収入で、高齢者や認知症の方が作るキッチン（こども食堂）も開催している。</p> |
| <p>中立エコ生活推進会議</p> | <p>毎年開催している「中立ふれあい広場」のエコ化に取り組み、京都市エコイベントに登録し、21項目の取組を実施。小学校高学年が自然エネルギーの環境啓発ブースを担当し、展示の燃料電池自動車の電気で調理をしたほか、同じ種類の食器をキレイに積み重ねて捨てられるよう、ナッジを活用してごみ箱を工夫するなどにより、令和4年度に比べてごみが半減した。隣接学区にも取組を伝え、波及した。</p> |
| <p><small>ながさわ みねこ</small> 長沢 峯子</p> | <p>家庭や木材工場等から出る処分品（木の端切れ、おがくず、布類、段ボール等）を活用して、不要なものから作品を創る「エコ物作り」に取り組み、展示や作り方を指導する講座を実施している。高齢者の老化・痴呆の防止、生きがい作りに貢献するとともに、ものを大切にする「もったいない」の精神を若い世代に伝えている。</p> |
| <p>potential</p> | <p>令和4年8月に学生団体兼ブランドとして設立し、捨てられてしまうパソコンやスマートフォンから取り出した電子廃材をアップサイクルするワークショップを京都府内外で開催するとともに、制作したアクセサリーの販売も行っている。また、提供される電子部品等の製造企業を取材し、ブログ等で発信することで、企業のSDGsへの貢献をPRする一助となっている。</p> |
| <p>名神深草森の会</p> | <p>平成19年から月に2～3回、名神高速道路の深草バス停周辺ののり面の草刈りを行うとともに、京都周辺に普通に見られる樹木を植え、森をつくる活動を行っている。また、子どもをはじめ、会員以外の一般人を対象に植樹祭や自然観察会、木々、草花を使った工作教室を開催し、自然に目を向け、自然に親しみ、自然の良さ、大切さを実感してもらうことを目指している。</p> |